★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473にて毎週受け付けています。ご協力の程、よろしくお願い致します。

COOP-JOSO News Letter

2019年12月2回号　発行/常総生協広報G

2019年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・おうちゴハン」

美味しい物には『ワケ』がある 健康な牛肉を食べよう！

11月13日（水）、今年の7月から牛肉の供給がスタートした能勢農場代表の寺本陽一郎さんにお越しいただき、座談会＆牛肉の試食会を開催しました。

能勢農場の取り組み・考え方だけでなく、畜産業界の実情や私たち消費者への問題提起など多岐にわたる貴重なお話しを頂きました。普段何気なく口にしている『牛肉』について、この機会に改めて考えてみてはいかがでしょうか。

◆牛は食べ物？それとも大切なパートナー？

皆さんは『牛』という言葉を聞いた時に何をイメージするでしょうか？多くの人が牛乳（乳製品）、焼肉・・・と食べ物を連想することと思います。ですが、現代のように重機が無い時代には農耕や運搬など食用として以外の『役用牛（労働力としての牛）』という大切な役割が存在し、生産活動を行う為の労働力として各家庭では必ず牛を飼っていました。また「家庭から出た残渣を牛に与える→その糞尿を畑に還元→その畑で牛と一緒に作物を育てる」という循環の中で共に生活してきた歴史があります。

本来牛は大切なパートナーでありその役割が明確にありました。ですが、現代では画一的な基準でランク付けされ、その存在価値とは無縁とも言える工場で作られる食品と同じ『単なる食べ物』になてしまったという現実が存在します。

◆美味しい物には『ワケがある』！？霜降りの牛は不健康

一般の市場ではサシが十分に入った『霜降り』と呼ばれる状態の肉が高級品とされています。ですが、この霜降りの状態は牛にとっては不健康以外の何物でもないという事はあまり言われていません。

肉牛を生産する農家を「肥育農家」と書きますが、これは文字どおり「肥らせて育てる」という行為であり、体を大きく育て、かつサシが多量に入った肉になることが望ましいとされています。サシのたくさん入った霜降り肉の牛には、太って歩けなかったり、糖尿病のような症状で目が見えなくなっていたりする牛がいるのです。無理に太らせているから病気になりやすく、予防のための投薬も必要になります。

作り上げられた「霜降り神話」に踊らされ、不健康な病気の牛（＝霜降り）を一生懸命に育てる生産者、そしてそれを歓迎する消費者。牛との共存はおろか、「美食」を追求するあまり、消費者の知らない生産現場で起きていること、また、牛を不健康にして、美味しい肉になったと喜んでいる現状や感覚に対して、「何かおかしい」と感じる感性を失いつつある人間と食の関係にも危惧感が否めません。

問題なのは「牛をそこまで貶めてまで霜降り肉を食べる必要があるのか」ということです。本来の役割を奪うだけでなく、さらにその上、苦しみを与えて「美食」したいという気持ちを私たちは抑えるべきではないでしょうか。

◆健康が一番『ありのままに育てる』

能勢農場は極力自然のままに育てたいという思いから、ホルモン剤・抗生物質は不使用。ワクチンも基本的に投与しません。一般には生後→450～500kgになるまで25ヶ月と言われていますが、能勢農場はさらに1～2ヶ月丁寧に育てて出荷します。

さらに自家配合飼料は、米ぬか、バガス（サトウキビ搾汁後の残渣）、糖みつ、ビールかす、おから、発酵ふすま、藁（わら）をローダーで混ぜ発酵させます。この中のほとんどのものが、**地元のもの**や関西よつば連絡会の**生産者からの協力を得て調達しています。**例えば、藁であれば、地元の農家さんからいただいています（初期除草剤1回の田んぼ）。変わりに能勢農場スタッフが牛糞を田んぼに運び"肥やし"にすることで農家さんも毎年良質なお米を作ることができ、まさに協同の精神で飼料を作っています。

能勢農場では単に歩留まりを求めるだけでなく**「健康な牛を育てる」事を第一としています。**

★一般の流通輸入肉と能勢農場の牛との違い

比較項目	一般の牛(流通輸入肉)※1	能勢農場の牛
飼料（配合飼料）	・草類(ごはん) ・トウモロコシ、大豆、綿実、麦(おかず) 等	★米ぬか ★バガス(サトウキビ搾汁後の残渣) ★糖みつ ★ビールかす ★おから ★発酵ふすま ★藁(わら) ⇒農場で自家配合（全体飼料の60%）残り40%は市場調達。自家配合比100%を目指す。
ホルモン剤(成長促進剤)	ほぼ使用	不使用
抗生物質	適宜使用	不使用
ワクチン	適宜使用	どうしても必要な時のみ使用
肥育期間(生後→450～500kgになるまで)	約20ヶ月	26～27ヶ月

＼今週配布の12月2回特別注文に掲載されています！ぜひご注文ください／

★寺本さんのおすすめは肉じゃが★

405020　牛バラ切落し250ｇ　1180円（税込1274円）

旨みがたっぷりのバラ肉を使いやすい切り落としにしました。袋入りでお届けになります。

★牛肉本来のうま味が味わえます★

405021　牛焼肉屋さん３種盛　3種300ｇ

＜特＞2430円（税込2624円）通常税込2754円

上バラ、サーロイン、モモを焼き肉用にカットして約100ｇずつのセットにしました。

●最近…皮がかたい？

鎌倉あらびきウインナーを食べたときに皮が口の中に残る感じがして噛み切れない。何ででしょうか？

（利根町：Nさん）

ご意見ありがとうございます。まず、ケーシングに使っている羊腸に関しては従来と同じものを使っています。ウインナー製造に使っているケーシング（調味した肉を詰める薄い膜）には一般的に2種類あります。

①天然ケーシング羊、豚などの腸のことで、天然ケーシングと呼ばれています。自然のなかで育った羊や豚の腸は、色や太さがバラエティに富み、良い意味でバラつきがあります。薄くて丈夫である上に、通気性があり、熱による伸縮性も良いため中に詰める肉との密着性が高いのが特徴です。

②コラーゲンケーシング動物性タンパク質を主原料としてホース状に機械製造されたものをコラーゲンケーシングと呼びます。コラーゲンケーシングの大きな特徴は経済性に優れていることと、品質ならびに供給の安定性です。工場で生産・管理を行うため、天然腸とは異なり、均一な形、食感の製品を作るのに適しています。上記の通り、②の工場生産されたケーシングを使えば食感は均一となり安定します。

ですが、鎌倉ハムのケーシングは①の天然ケーシング（羊の腸）を使用しているため、由来となる羊の個体差や食べている餌によっても若干の違いがどうしても出てしまいます。天然ケーシングに関しても、合成添加物（リン酸塩）の液に漬けて軟化（柔らかくすること）処理をしているものが多くあります。対して、鎌倉ハムの羊腸は合成添加物を使わず、塩水処理したものを使っているため食感に違いが出てくることがあります。

（商品部・横関）

●大学いものたれが美味しい！

大学いものたれが息子に好評でした！近いうちに取扱があるとよいのですが・・・

（阿見町：Mさん）

ご意見ありがとうございます。「桃花林大学いもたれ」という商品を12月１回**322番**、12月3回**335番**で企画いたします。ぜひご利用ください！　（商品部　管）

●常総生協まつり、楽しかったです！

絆巻きに参加しました。楽しく、おいしく頂きました。買い物も沢山しました。

（取手市：Sさん）

ご意見ありがとうございます。今年は過去最大となる35ブースが出店し、天候にも恵まれて楽しい生協まつりとなりました。来年もご期待ください。

（商品部　小宮山）

STOP!！東海第二原発再稼働　いばらき大集会に参加して

11/16（土）水戸駅前にある駿優教育会館で行われた「STOP!！東海第二原発再稼働 いばらき大集会」に組合員5名、役員1名、職員10名で参加してきました。

集会では、脱原発ネットワーク茨城の小川仙月共同代表から東海村山田修村長が原子力業界誌の対談で東海第二原発の再稼働を容認するような発言に言及し、また、運転開始から40年経ち老朽化した東海第二原発の危険性、再稼働予定の2023年には停止期間が10年以上経ち、今までの経験から予測する以外のトラブルの発生を危惧しており、「無理に無理を重ねた再稼働は危険だ」と訴えていました。

「福島からの訴え」では、福島県浪江町町議で漁師の高野武さんより汚染水の海洋放出に多くの漁業者が反対しており、福島の漁業への今も続く影響を訴えられていました。事故当時、福島県大熊町にお住まいで現在新潟県に避難中の大賀あや子さんは「税金の支援を受けている東電が日本原電に2200億円を支援することは絶対に許せない。」「避難地域解除は、住人の健康は考えず、オリンピック、経済優先の政策だ。」と言葉を詰まらせながら訴えられていました。

「茨城からの訴え」では、各界の賛同人の方が登壇され、茨城県生活協同組合連合会会長の佐藤洋一会長からは、県民の命とくらし・子どもたちの未来を守るために、県民とともに廃炉になるまで「**イヤなものはイヤ！ダメなものはダメ！**」と取り組んでいくと述べられました。東海第二原発再稼働申請を受け、茨城県連をはじめ、栃木県連、埼玉県連など近隣の都県生協連からも抗議声明の提出されていると話されました。

集会後は、市の中心部を「東海第二　再稼働反対！」「老朽原発、今すぐ廃炉！」「ふるさとを守れ！」などと声を合わせ、シュプレヒコールを上げながらデモ行進を行いました。

昨年の夏に行われたときは、稼働から40年迎える前で再稼働の申請を行うか？どうかの時で会場も熱気であふれ、参加者も1,000名を超えたと発表がありましたが、今回は約700名。デモ中にチラシを配布している方に、「やっても無駄だよ」チラシを受け取らない人もいたりしましたが、こうした危険な原発がすぐ身近にあることや「フクシマを忘れない」ことを訴え続けていかなければならないと感じています。

今、東海第二原発の再稼働には、県の同意、周辺6市村の首長の同意が必要とされていますが、再稼働の賛否について県民一人ひとりが意思を表すことの出来る「県民投票」を行おうという動きがあります。私自身としては、各個人の意思を表明する機会を設けること大切なことだと思います。出来るところから協力したいと感じています。

（常務理事　木内）